

只見町ブナセンター自然観察会

「初夏の只見沢で溪畔林と雪食地形を見る」を開催

自然観察会「初夏の只見沢で溪畔林と雪食地形を見る」が、6月26日に田子倉地内の只見沢で開催され、14人が参加しました。

参加者はブナセンター指導員の解説のもと、雪食地形や代表的な森林植生であるブナ林、トチノキ・サワグルミの溪畔林といった只見地域を象徴する自然環境を観察しました。森林のほか多雪地帯の落葉広葉樹林を代表する昆虫であるマガタマハンミョウや倒木に集まるヤスデやヤマナメクジなどの様々な生物を観察し、参加者は只見町の自然について理解を深めました。



▲ブナの倒木に集まる生物について参加者に解説するブナセンター指導員

町の文化や歴史を学ぶ

令和3年度「なんでもチャレンジ隊」が開講



▲出題されたクイズを真剣に考える児童たち

令和3年度「なんでもチャレンジ隊」の開講式が7月3日(土)に行われ、チャレンジ隊に所属する児童のうち11人が参加しました。開講式後は、第1回目の講座「只見町の文化財を学習しよう！」が開かれ、叶津番所と旧五十嵐家住宅で、管理人の三瓶こずえさんを講師に建物の造りや当時の文化について学びました。

児童達は三瓶さんから出題されるクイズに一喜一憂しながら、「沢山の民具が残っていることに驚いた」、「娘の部屋に飾ってあった着物がキレイだった」と感想を話しました。

只見町で自然を学ぶ

会津学鳳高校が只見町のブナ林で研修

県立会津学鳳高等学校1年生52人が7月10、11日に只見町を訪れ、ブナ林研修を行いました。

生徒は、ただみ・ブナと川のミュージアムを見学後、癒しの森で原生的なブナ林とかつての薪炭材生産のために伐採され、再生してきたブナ二次林の構造的な違いを比較調査しました。

また深沢地区の森で、5つの林(スギ人工林、落葉広葉樹二次林、ブナ二次林、ブナ成熟林)の毎木調査、低木調査、光環境調査を行いました。

生徒は今回のデータを学校に持ち帰り、今後の授業の中で異なる種類の林の構造や光環境と林床の樹木の多様性の関係について学ぶそうです。



▲ブナ林を観察する会津学鳳高校の生徒たち

今年もCM大賞に参加します

只見高校生がCM大賞応募作品を作成

KFB福島放送主催「ふくしまの元気！応援CM大賞2021」の応募作品を県立只見高校総合文化部パソコン班が作成しました。

パソコン班の生徒は作成したCMについて、「只見町の良い所を詰め込んだCMです。おすすめのシーンはイワナを頬張るシーンと田子倉湖の絶景です。ぜひご覧ください」と話しました。

今回只見高校生が作成したCMは、8月18日からKFB福島放送のCM大賞特設ページにて公開され、視聴者WEB投票が行われます。ぜひご覧ください。



▲主演の3年生目黒さん、カメラマンの2年生岩佐君（山村留学生）、サポートの1年生の皆さんが協力して作りました。

水はどこから来てどこへ行くの？

町内小学校上下水道施設を見学



▲沈でん槽設備に興味津津でのぞきこむ朝日小児童

町内各小学校4年生の社会科授業で、各地区の浄水場や浄化センターの見学学習が行われ、生活の中で使用される水が、「どこからどのように来ているか」や「使用した水がどのように処理されているのか」などを学びました。（朝日小6月16日、明和小6月22日、只見小6月28日）

児童は、普段は見ることのない給水ポンプなどの機械の大きさや計器類の数に驚きながら見学し、「川がキレイになっていくことに感動しました」、「微生物が汚れを食べてくれることにびっくりしました」と感想を話しました。



▲汚水処理の仕組みを真剣に聞き入る只見小児童



▲只見町の1日の水道使用量をメモにとる明和小児童